見えるもの・見えないもの

世の中には、目に見えるものと目に見えないものがあります。
目に見えるもの。
それは例えば、「結果」です。
テストの「点」。
体育などの「技」。
作品や行動や態度もそうです。
基本的に学校では、「目に見えるもの」に集中的に評価が向けられます。
もちろん、目に見える世界も大切です。
しかし、そればかりが大切だとは言い切れないでしょう。
なぜなら、目に見えるものは、目に見えないものによって支えられているからです。
目に見えないものの代表、それは「こころ」です。
キューっと締め付けられたり、ポーっと恋焦がれたり、ウキウキ弾んだりするアレです。
心の存在を否定する人はいないはずです。
例えば、自分にとって物凄く大好きな人が目の前に現れたとしたら、どうなるでしょうか。
表情はきっと明るくなります。
声のトーンはきっと高くなります。
心拍数も上がって顔が紅潮するかもしれません。
行動も積極的になることでしょう。
心という目に見えない世界が変わっただけで、目に見える表情や行動はここまで変わります。

目に見えない世界が、目に見える世界をしっかりと支えているのです。

他にも、「道のり」や「過程」も多くの場合目に見えません。
陰で積んだ努力とか、一所懸命準備に使った時間を、周りで見ている人は多くの場合知らないからです。
でも、結果はどう考えても、過程に支えられています。
多くの人は、オリンピック選手のような天才たちを自分とは別次元の人間だと切り離して考える傾向があると以前ある本で読みました。
しかし、その「天才」といわれる人たちの努力の過程を知ったら、きっと多くの人は「納得」するはずです。
そのパフォーマンスにふさわしい見えない部分の努力を、長い間積んできたことは間違いないからです。
去年、池江璃花子選手がオリンピック日本代表に選ばれたニュースが大々的に報じられていましたが、「天才」という一言では片づけられない並々ならぬ努力の道のりがあったことは想像に難くありません。
「努力は必ず報われる」と思わず涙するほどの努力を積み重ねてきた姿を想像し、胸熱くなるものがありました。

見えないものの代表で言えば、神様も目に見えません。
でも、「目に見えない」ものを「存在する」と明言する人はたくさんいます。
例えば、プロ野球選手が次のコメントを発することがあります。
「野球の神様に感謝したいです。」
「野球の神様を感じた瞬間でした。」
プロ野球の中でも、屈指の名選手と言われる人ほどこういう言葉を口にする傾向があります。
でも、野球の神様が本当にいるのかいないのか。
そのことは、誰にも確かめることはできません。
けれども、その存在を確かに感じている人がいるのは事実です。
名だたる超一流の科学者たちも、その存在を言い続けています。
「何かあるとしか考えられない」と言うのです。
筑波大学名誉教授の村上和雄博士は、その存在にサムシンググレート（何か偉大なもの）と名付けました。
作家のパムグラウトさんは、フィールドｵﾌﾞポテンシャルと名付けていま

す。
　見えないものを出したらきりはありません。
　サンタがそうです。
　友情も優しさも愛も絆もそうです。
　お馴染み「そんなことしたらバチが当たるよ！」のセリフも、誰がどんなバチを当てるのかは誰にも分かりません。
　でも、そうした見えざる存在を信じたり、心の拠り所にしている人は世界中にいます。
　大切にすることで、心が整ったり、潤いを取り戻したり、安らぎや癒しが生まれているからなのでしょう。

　サン＝テグジュペリ作、「星の王子様」にはこんな一節があります。

家でも、星でも、砂漠でも、それを美しくしているのは、目に見えないものなんだね。 　ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。 　いちばんたいせつなことは、目に見えない。

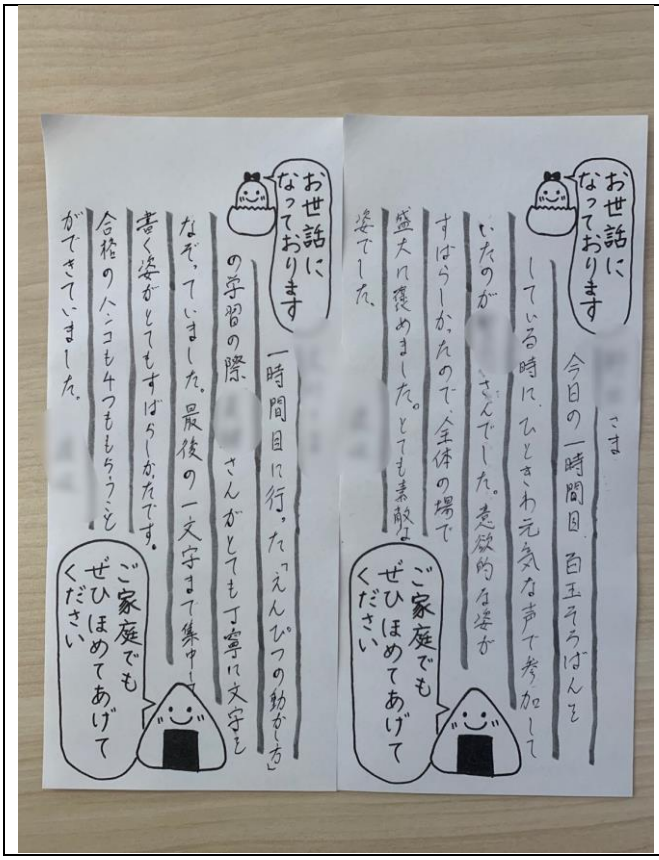
　見える世界は、見えない世界によって支えられています。
　だからこそ見えないもの、見えない世界を大切にしていきたいと思っていますし、そう在りたいと常に思っています。
　しかし、学校にはそうした見えない心の成長などを認める仕組みが少なすぎるのです。
　そこで、工夫をすることにしました。
　先日の学級通信に書いた通り、学校に来る目的を子どもたちには次のように伝えました。

「かしこく・かっこよくなるため」

　かしこくとは、頭や体の成長を指します。
　知らないことが知れたり、出来ないことができるようになったり。
　こうした知識や技が高まったり身に着いたりしていくことが、学校の一つの大きな目的です。
　そして、かっこよくとは「心」の成長をさした言葉です。
　日本語としてのもともとの意味は、「ふさわしい」や「ぴったりである」などの意味があるからです。
　小学生としてふさわしい。

幼稚園や保育園を卒業した人としてぴったりの生き方。
生まれてから７年間生きてきた者にふさわしい在り方とは。
そんな心の成長が見て取れた時には、テストや通知表以外のやり方でもってして認めてあげたいなぁと考えています。
すでに、入学してから１か月ほどが過ぎましたが、もうここには書ききれないくらいの変化や成長がありました。
その多くは、「目に見えない」部分の成長です。
それら一つ一つを全て記すと、恐らく毎日１０枚通信を発行しても足りないくらいです。
私が声を掛けて認めてあげるのも一つなのですが、色んな方からもそうした声掛けをしてもらいたいなぁとの願いで、今年からいくつかの制度を導入しました。
その一つが、「クリップ制度」です。
明らかな心の変化や成長があった場合は、その場ですぐさま表彰。
プレゼントクリップを渡してあげることにしています。
例えば、ある子は、話を聴いている時に素晴らしい返事ができるようになりました。
ある子は、今まで中々取り組めなかった学習に粘り強く取り組めるようになりました。
ある子は、ついつい手を抜きがちな学習場面において、一切の妥協をすることなく丁寧に取り組む姿が光りました。
そのたびに、素敵な姿を認め、クリップを渡しています。
そのクリップは入れる場所があって、これがコップ一杯になった時にはみんなでお祝いしようねとも伝えてあります。
みんなの内なる成長がたまった証（あかし）だからです。

また、次のような一筆箋でお家の方に成長をお伝えすることもあります。
しかも、このクリップや一筆箋は色んなクラスの先生が色んなクラスの子どもたちに渡していいことになっています。
学年全員の先生方で、内なる成長を後押ししたいとの思いからです。



もし一筆箋を持ち帰ってきたときや、クリップを貰った話を始めた時は、ぜひどんなことがあったのか尋ねてみてください。

そして、その栄冠や成長を共に喜んでいただければとても嬉しいです。

（文責：渡辺道治）

１学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ (google.com)